

大阪府立

東大阪

支援学校

タイトル(テーマ)

あらゆる障がいの子どもたちと音楽で関わるネタとコツを探る

<高等部普通課程の課題学習の授業で用いた教材に関する実践報告>

東大阪 No. 7 号

令和

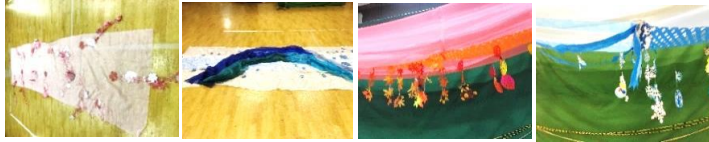
2 年 1 月 22 日

取組の内容・授業の様子(普通課程)

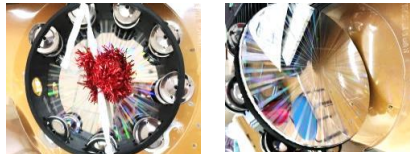
- ①生徒の実態に合わせた呼名に用いる楽器, 音素材
・エネルギーチャイム・靴下ビー玉



- ②季節の活動のガーランド
・左から春夏秋冬



- ③感覚統合を促す音素材
・ボール付き
ミラータンバリン



【目的】

・慣れ親しんだ音楽や操作しやすい楽器や音素材を用いて楽しみながら活動する。
・それぞれの課題に音楽の持つ生理的、心理的、社会的アプローチで療育的な発達を促すことを目的とする。

【活動の様子】

・①を授業の始まりでの呼名時に実態に応じて使い分けた。言葉で返事ができても楽器や音素材を使って返事をする事で振動を感じ、聴覚へのフィードバックや参加へのきっかけができた。
・各季節の活動では歌唱活動に②の大布のガーランドや季節の小物(さくら、落ち葉、雪などを撒く見立て遊び)を取り入れてオーシャンドラムやミュージックベル、ツリーチャイム等をそれぞれの生徒が持つ課題を踏まえて分担し、集団活動に参加しやすくなったことで活動の枠組みを作ることができた。また指示にあわせてタイミングよく音を鳴らし、他者を意識しながら音を聞き合う様子が見られた。ガーランドに手を伸ばし、掴むなどの視覚と手の協応に見られる注視・追視・近づける・掴むなどの活動も毎回見られた。
・③の感覚統合を促すボール付きミラータンバリンによる楽器活動では色、形状、素材、操作方法、音色の特徴を駆使して操作性を高めるように工夫し、体の配置と筋肉調整である固有覚の発達を促した。聴覚過敏の生徒が生き生きとした笑顔で操作し、自ら発した音、音量に対しては受け入れる様子が見て取れた。

成果と今後の課題

- ・生徒の好きな音楽・楽器・活動・刺激をさがし、それを活用して好きな活動を拡大させていき、生徒一人ひとりの行動特徴に合わせた配慮をすることで目的に基づく活動を実施していくことである。
・生活年齢を考慮したほめ言葉や身体接触、楽器や提示する音楽を選択していくことも今後の課題である。